

氏名(本籍)	片岡 暁夫 (東京都)
学位の種類	教育学博士
学位記番号	博乙第404号
学位授与年月日	昭和62年7月31日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	体育科学研究科
学位論文題目	ポール・ワイスのスポーツ哲学についての構造的研究 —とくにクラスターアナリシスによる解釈仮設の設定に基づいて—
主査	筑波大学教授 教育学博士 成田 十次郎
副査	筑波大学教授 教育学博士 松浦 義行
副査	筑波大学教授 渡辺 一郎
副査	筑波大学教授 教育学博士 高久 清吉
副査	筑波大学教授 草薙 進郎
副査	筑波大学助教授 堀 洋道

論文の要旨

(1) 論文の構成

この論文は、本論3部15章と補論、結章、参考文献、及び資料(別巻)よりなり、本巻458頁、補巻478頁である。

(2) 研究の目的

本論文は、現代アメリカの著名な哲学者ポールワイスのスポーツ哲学の構造を、彼のスポーツ哲学の主著を中心として、新に工夫した内容分析の手法を用いて明らかにし、彼の哲学と関連づけて理解することにある。

(3) 研究の方法

「ワイスのスポーツ哲学用語を統計的に整理することが、彼のスポーツ哲学をより一層構造的に理解する手掛かりとなる」という考え方に基づいて、まず、研究方法として「数量化の方法」が確立された。次に、それにもとづいて、用語の関係モデルが導き出された。さらに、このモデルを構成する各用語の用例について、解釈学的手法によって検討を加え、彼の思想の構造を導き出すという方法をとった。

(4) 論文の概要

ポール・ワイスのスポーツ哲学の構造は、次の図で示すように、10層に分けることができる、ワ

イスは第1章においてこの作品の哲学的意義および立場について明らかにしている。そして第2章において、従来の人文社会科学的なスポーツ参加の理論について検討し、批判している。このような意味で、自己の立場と他の人々による従来の立場を対比することにより、自己の立場を確立しようとしている。このような立場は注の中で示したような彼のそれまでの哲学理論にまで遡って理解されるべきものであるが、一応の理解が可能になっている。これが基本的な出発点となっており、第1層を構成する。

第3章では競技者と身体、第4章では精神を扱い、二つの側面から競技者をとらえようとしている。二元論的であるという批判が予想される場所であるが、これら二つの章をまとめてみれば、その相互作用についてのべており、説明方法として妥当であり、現実に対して有効であるといえよう。これらの章が第2層を構成する。

第5章は人間と世界の接触を、用具とルールという二つの側面からとらえたものであった。すなわち、用具においては主として身体と関係し、ルールにおいては精神と関係するといえる。このような意味で第2層と関係をもちながらも、外界との接点の構造を明らかにしている独自の層をなしていると考え、第3層とした。

第6章から第9章までは、スポーツ世界の中への競技者個人の適応およびそれに伴う人間としての成熟が論じられて、第4層をなしている。ここではまだ人間と人間の関係については触れられていない。

第10章において、人間集団の適応が問題とされる。行動ないし行為の単位としての集団が論究されて第5層をなしているのである。

第11章において、勝利へと統括する意志が論じられ、普遍的人間のレベルでのこれまでの議論をまとめている。ここでは他の種類の統括的意志との区別、例えば、戦争における意志との決定的な区別が明らかにされ、スポーツ的意志の相対的特性が把握された。この第6層までを、本論文の第一部としたのは、上記のような理由に基づく。

第2部では、ワイスが現代社会におけるスポーツの社会的な基本問題を論じた論証について、分析を試みている。

すなわち、第12章ではアマチュアとプロフェッショナルの区別について論じ、第13章では女性のスポーツについて論じ、第14章においてはスポーツ遂行の標準化、すなわち様々な条件を考慮にいれながら卓越度を比較可能にする方法が摸索されていた。しかしながら、具体的であるだけに歴史的ないし文化的制約のもとにあり、現在では、既に状況が変化した部分を含むので、基本的なところを要約してのべ、第7層社会論として位置づけた。

第3部では、ワイスのスポーツ哲学の背景をなす形而上学と教育哲学との関連が明らかにされている。

第15章の形而上学的存在論としてまとめたものは、ワイスのスポーツ哲学の全体を象徴するものであるとともに、背景にあるワイスの哲学の中心部分への接点であるといえた。すなわち、スポーツの形而上学は、大別して身体の形而上学と人間の意味の形而上学に分けられた。競技者の世界性

は、人間とその他のものの区別を取り払い世界と合一する瞑想家的な非実利性を獲得する。また他の世界に対する競技者世界の意味が定められる。永遠の世界と関連づける働きゆえに競技世界は宗教の世界と関連づけて対比され、その特有の側面が明らかにされた。これを第8層として位置づけた。

さらに補論「ポールワイスの教育論におけるスポーツの位置」では、善なる生活と身体の位置、余暇観、卓越への参加、人間集団の各領域間の協調の論理、スポーツと教育の関連について明らかにしている。これは、彼のスポーツ哲学執筆の直接的な背景をなしており、そこに位置付けられたので、これを第9層とした。

小図において哲学的地としたものは、ワイスのさまざまな哲学作品の中に見いだされたスポーツ哲学との共通性を示している。これは、本論文の各章に附した注でのべられた内容に示された。これらが第10層をなしている。

以上によって、ポールワイスのスポーツ哲学の構造が、彼の哲学全体との関連で明らかにされた。

審 査 の 要 旨

この研究は、これまでの解釈学的研究がおちいりがちであった弊害を排して、可能な限り、全体的で客観的な文献理解に基づいて、ワイスのスポーツ哲学を構造的に理解しようと試みた点に、優れた特色を有する。

そして、この研究によって、ワイスの哲学全体の中で、教育におけるスポーツの意味が解明されたこと、スポーツ哲学史上におけるワイスのスポーツ哲学の意義の一端が解明されたことなど、注目すべき成果をあげている。

片岡氏自身が認めているように、この研究で用いた統計的方法は、言葉の意味理解に関しては、一定の限界をもつものであり、慎重な適用を要することはいうまでもない。氏はその限界を解釈学的方法で補っている点にも努力のあとがみられ、これからの文献研究の一つの方向を示しているともいえる。

よって、著者は教育学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。